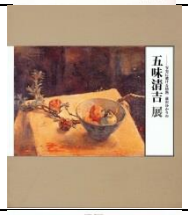
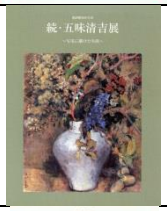
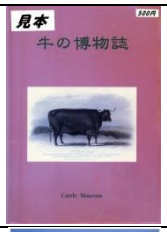
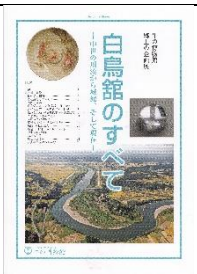
販売図録一覧

	書籍名	サイズ・ページ数	内　　容	価格
	特別展示図録 　インドネシア・サダントラジャ展 　～水牛信仰の実際を探る～ 平成７年９月発行	変形 A4　P37 全カラー	牛の博物館第１回特別展「インドネシア・サダントラジャ展」の解説図録。牛の信仰をもつトラジャの人たちの暮らし、水牛との関わりなど、トラジャに関する多くの資料を紹介しています。	1,200 円
	第４回企画展 　和牛 平成９年８月発行	A4　P18	和牛の起源や私たちの祖先が牛の改良を重ねてきた道をたどり、牛肉の食文化の歴史をたどっています。	300 円
	＜前沢町合併４５周年記念＞ 　前沢ゆかりの　五味清吉　展 平成 12 年 10 月７日発行	変形 A4　P37	五味画伯は、岩手県洋画壇の先駆的指導者であるとともに、前沢ゆかりの人でもあります。写実に賭ける画伯の美を鑑賞できる図版です。	1,200 円
	第 12 回企画展 　クローン 平成 13 年７月 27 日発行	A4　P19	人工授精から体細胞クローンまでの人工増殖技術の歴史を紹介しています。畜産技術の正しい理解、性の持つ意義などを探ります。	600 円
	干支シリーズ４ 　家族で楽しむ企画展２００２ 　ウマ・馬・午 平成 13 年 11 月９日発行	A4　P15	ウマとウシは代表的な草食動物です。また、双方とも人と共に歩んできた歴史を持つ重要な家畜です。楽しいクイズ形式でウマの秘密や、かかわりについて解説してます。	500 円
	第 13 回企画展 　ミャンマー奥地の人と家畜 　海外学術調査から 平成 14 年８月２日発行	A4　P15	民族のるつぼと言われる東南アジアは、古来多くの民族が移り住んできたところです。なかでもミャンマーは、民族構成をはじめ家畜種において多様な地域です。海外学術調査で収集した資料を紹介します。	500 円
	干支シリーズ５ 　家族で楽しむ企画展２００３ 　羊は、牛ですか？ 平成 14 年 11 月 12 日発行	A4　P15	ヒツジは、ウシ科の動物です。どこがウシと同じで,どこが違うのか、分かり易く解説しています。	500 円

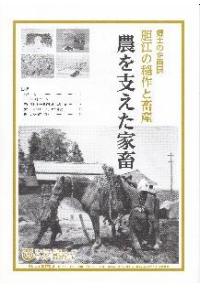
	干支シリーズ６ 家族で楽しむ企画展２００４ お猿さん 平成 15 年 11 月 19 日発行	A4　P19	世界には２百種類ものサルがいます。動物学的には霊長類といって、私達人間も「裸のサル」とも呼ばれ、その仲間に含まれています。サルとウシ、そして人間との比較を解説しています。	500 円
	干支シリーズ７ 家族で楽しむ企画展２００５ コケコッコー 平成 16 年 11 月 25 日発行	A4　P19	ニワトリってどんな動物でしょう。ウシと比較しながらニワトリを楽しく紹介しています。世界各国のニワトリの鳴き方にも興味が湧きます。	500 円
	前沢ゆかりの続・五味清吉展 写実に賭けた生涯 平成 17 年 4 月 23 日発行	変形 A4　P51 全カラー	牛の博物館では郷土資料の調査や収集もおこなっており、五十周年記念の先人顕彰事業として取り組み、前沢町ゆかりの五味画伯の写実に賭けた作品を披露しました。	1,500 円
	干支シリーズ８ 家族で楽しむ企画展 2006 わんわん＆オオカミ！？ 平成 18 年 2 月 10 日発行	A4	イヌはいつ頃から飼われてきたのでしょう。また、オオカミはどうして絶滅したのでしょうか。ウシと対比させ、楽しく解説します。	500 円
	東西和牛ブランドシンポジウム 記録集 平成 18 年 3 月発行	A4　P28	牛博 10 周年記念事業でシンポジウムを開催した際の記録集です。地域の和牛ブランドを支える女性たちの取り組みの事例発表など参考になります。	500 円
	干支シリーズ 10 家族で楽しむ企画展 2008 ネズミにチューもく？ 平成 19 年 11 月 23 日発行	A４　P13	医学や農畜産学などの発展のためになくてはならない大切な家畜であったネズミを、種類、歴史、生物学などいろいろな支店から紹介しています。	500 円
	牛の博物誌 ※肉牛新報社発行／牛の博物館監修 平成 9 年 9 月発行	B５　P24	肉牛新報社瀧川昌宏氏が『肉牛ジャーナル』誌上で 22 回に渡り連載した、当館の展示内容について解説・紹介しています。	500 円
	短角 北上高地のうし＜短角＞と人 －アジア最東端の地が育んだ牛文化－ 平成 21 年 3 月 31 日発行	A4　P7	北上高地で飼養されてきた短角が、そこに暮らす人々とどのように関わり、飼われているのかを文化的に探り、新たな短角の実像について紹介しています。	300 円

	干支シリーズ 11 家族で楽しむ企画展 2010 寅さん！なぜ牛には虎毛があるの？ 平成 21 年 12 月 6 日発行	A4　P13	肉食動物であり最大のネコ科動物であるトラは、発達した爪や歯を持っています。草食動物のウシとの相違点や文化・民俗からみたトラについて紹介しています。	300 円
	干支シリーズ 12 家族で楽しむ企画展 2011 ウサギのひみつ 平成 22 年 12 月発行	A4　P13	ウサギはその愛らしさから、私たちの心を癒してくれるペットとして、また、食用や毛・毛皮をとるための家畜として飼われてきました。この愛らしい動物の意外に知られていない生態について紹介します。	300 円
	牛の博物館第 20 回企画展 世界の牛貨展―財産からコインへ― 平成 23 年 7 月 20 発行	A4　P30	英語でウシは“Cattle”といいますが、ラテン語の“Captale(資本・財産)”が語源と言われています。様々な国や地域のコインや紙幣に描かれたウシを通して、私たちとウシのかかわりを考えます。	500 円
	干支シリーズ 13 家族で楽しむ企画展 2012 土に住む竜―モグラ― 平成 23 年 12 月 1 日発行	A4　P13	「竜」の文字を名前にもつ「モグラ（土竜)」。地中で生活する小動物になぜ、「竜」という文字が当てられているのでしょうか。身近な動物でありながら、よく知られていない生態や品種などを紹介します。	300 円
	牛の博物館第 21 回企画展 日本の銘柄牛 ―ポスターに見る地域ブランド― 平成 24 年 7 月 20 日発行	A4　P27	高級食材の代名詞ともいえる「銘柄牛」。日本中にはたくさんの銘柄牛が存在しています。安全性、独自性が求められる銘柄牛のありようを、ポス　ターを通して紹介します。	500 円
	干支シリーズ 14 家族で楽しむ企画展 2013 ジャジャジャ蛇～ん 平成 24 年 11 月 30 日発行	A4　P13	ヘビは、とかく嫌われがちな動物の代表です。しかし、怖い面だけでなく私たちに利益をもたらすものとしての一面もあります。身近にいるヘビのちょっと変わった生態や特徴を紹介します。	300 円
	牛の博物館第 22 回企画展 ふるさとの玩具 平成 25 年 7 月 20 日発行	A4　P23	郷土玩具には、材料や製法などにその土地で培われてきた風土が反映され、農耕行事や祭礼などの習俗が根付いています。当時の信仰や生活がうつしだされた牛の郷土玩具を紹介します。	500 円

	前沢区小学校統合記念企画展 　学び舎の思い出 平成 26 年 2 月 15 日発行	A4　P17	平成 26 年 4 月 1 日から前沢区内の 7 つの小学校が 1 つに統合し、新しい一歩を踏み出します。学校の「たからもの」を通して前沢の小学校のあゆみをふりかえります。	400 円
	国立科学博物館・コラボミュージアム in 奥州 牛の博物館第 23 回企画展 「角―進化の造形」 平成 26 年 7 月 19 日発行	A4　P19	社会的な機能が中心となる角は、そのデザインにおいては進化の自由度が大きく、多様な姿を見せています。国立科学博物館のヨシモトコレクションの剥製標本を中心に様々な角を紹介します。	500 円
	郷土の企画展 「奥州自然史紀行―地史編―」 平成 27 年 2 月 28 日	A4　P15	奥州市では 5 億年前から現在にいたるまで、さまざまな時代の岩石や化石が見られます。市内各地の地質資料を集めて、奥州市の大地のおいたちを紹介します。	500 円
	牛の博物館開館 20 周年記念企画展 「南部牛の姿をもとめて」 平成 27 年 7 月 18 日	A4　P17	南部牛は、東北地方北部で飼育されていた在来牛です。南部牛は運搬、堆肥の供給を担い、厳しい東北での人々の暮らしを支えてきました。 残された資料や、南部牛の血をひく日本短角種から、現在は見ることができなくなった南部牛の姿を探っていきます。	500 円
	牛の博物館第 19 回企画展 「厩の記憶」 平成 22 年 7 月 29 日　発行 平成 27 年 11 月 28 日　第 2 版発行	A4　P38	牛馬は古くから私たちの暮らしに欠かせない大切な家畜です。牛馬を守るため、馬頭観音などの神仏とはべつに、厩猿（うまやざる）と呼ばれる牛馬守護の信仰がかつて全国的に行われました。 奥州市に残る厩猿の頭蓋骨を集め、猿と牛馬の関わりを紹介します。	600 円
	郷土の企画展 「民俗芸能の動物たち」 平成 28 年 2 月 27 日	A4　P17	ニワトリは夜明けを告げる鳥、ヘビは水をあやつる存在、神仏やその使いとなって民俗芸能に登場する動物は、昔の人々の自然への畏敬の念が具現化されたものです。 奥州市に伝わる神楽などの民俗芸能に登場する動物たちを、地元資料をもとに紹介します。	500 円

	郷土の企画展 「奥州自然史紀行—鳥類編—」 平成 29 年 2 月 25 日	A4　P17	鳥類は生態系の中は消費者であり、猛禽類などはその上位に位置しています。鳥類の多様性は、その地域の多様性を示しているとも言えます。 大地の成り立ちによって異なる環境と人の暮らし、そこにすむ鳥を取り上げます。	500 円
	牛の博物館第 25 回企画展 「耕す—犂をひく家畜の風景—」 平成 29 年 7 月 22 日	A4　P21	家畜に田畑を耕させる犂耕は、荷物を運ばせる駄裁と並んで家畜の役利用の中心です。 日本各地の多様な在来犂の形態と各地域の環境や地理的・文化的な要因との結びつきを分かりやすく紹介します。	500 円
	郷土の企画展 「白鳥舘の植物—人里の草花—」 平成 30 年 2 月 24 日	A4　P23 一部カラー	国指定史跡白鳥舘遺跡は、現在にいたるまで、水田、宅地、屋敷林、植林が入り混じった里の環境を維持してきました。本企画展では、白鳥舘において採集された草花を展示し、この地方の人里で営まれてきた自然と人の関係を紹介します。	500 円
	牛の博物館第 26 回企画展 「牛飼いたちの仕事 　—飼養管理の昭和史—」 平成 30 年 7 月 21 日	A4　P21	戦後しばらくは、各家庭で少数の牛を飼育し、耕作や荷物の運搬などに用いましたが、やがて肉・乳用牛に特化した飼育に替わっていきます。 昭和の時代を中心とした飼養管理の道具と、牛飼いの仕事について紹介します。	500 円
	郷土の企画展 「白鳥舘のすべて —中世の川湊から城館、そして現在—」 平成 31 年 3 月 26 日	A4　P25 一部カラー	流通の重要拠点とされ、浄土の都市「平泉」を支えた国指定史跡・白鳥舘遺跡出土の考古遺物、さらには畜産・漁労など、白鳥舘で営まれてきた生業を紹介し、過去から現在にいたる白鳥舘遺跡の歴史を解説します。	500 円
	牛の博物館第 27 回企画展 「アジアの在来家畜写真展 　—家畜とヒトの多様な暮らし—」 令和元年 7 月 20 日	A4　P25 フルカラー	世界の家畜品種は数千～数万ともいわれますが、経済性が高い品種の普及で地域品種は失われつつあり、ヒトと家畜の関係は変容しています。 在来家畜研究会員が世界各地での調査の際に撮影した写真から、家畜動物とヒトのかかわりの多様性を紹介します。	600 円

	郷土の企画展 「受け継がれる技、受け継ぐ心 　－地域をつなぐ北国の布文化－」 令和 2 年 2 月 22 日	A4　P19 フルカラー	かつて、家族が身に着ける衣類の製作、管理、補修は、家の女性たちによって営まれてきました。 本企画展では、岩手県前沢を拠点に活動を行ってきた「女わざの会」が、38 年間の活動で収集・記録した布にまつわる岩手の手わざを紹介します。	500 円
	牛の博物館第 28 回企画展 「牛の美」 令和 2 年 11 月 21 日	A4　P19 フルカラー	日本において牛は、人とともに働く動物で、誰もが接することのできる庶民の家畜でした。身近であるゆえに、縁起物や物語の題材にも牛が登場します。牛の博物館収蔵品コレクションの中からよりすぐりの牛の絵画と手工芸品を紹介します。	500 円
	牛の博物館 Web 企画展 「世界の牛切手」 令和 3 年 3 月 31 日	A4　P95 フルカラー	切手という小さな画面に描かれた牛の姿には、お国柄や時代を反映した豊富な情報が含まれています。平成 8 年開催の企画展「切手にみる世界の牛たち」以降に受け入れした新資料を含め、改めて世界の牛切手を紹介します。	1,200 円
	牛の博物館第 29 回企画展 「大地に生きるウシ 　―究極の反芻獣―」 令和 3 年 7 月 17 日	A4　P27	ウシ科動物は、草原に適応した感覚器官、消化器官、運動器官を備え、それによって生息域を広げ多様化しました。高度に特殊化したウシの体の特徴を、様々な標本で紹介します。また、ウシと生態系とのつながりを紹介し、これからのヒトと自然の関係を考えます。	500 円
	郷土の企画展 「胆江の近代画家たち ―五味清吉と佐々木精治郎を中心に―」 令和 4 年 3 月 1 日	A4　P18 フルカラー	胆江地方を代表する画家である、五味清吉、佐々木精治郎らは、岩手県で初めて専業の画家として活躍した世代です。 五味、佐々木の作品を中心に、同時代に活躍した地元画家の作品を展示し、大正から昭和にかけての岩手県内での近代絵画の動向を紹介します。	600 円
	牛の博物館第 30 回企画展 「黒毛和種の源流をさぐる ―但馬地方の『蔓牛』と飼養文化―」 令和 4 年 7 月 16 日	A4　P29	黒毛和種を語る上で、兵庫県内で生産される系統牛「但馬牛」を欠かすことはできません。 但馬牛のふるさとである兵庫県但馬地方より蔓牛に関する資料をお借りして、独自の牛の飼養文化と、現在の肉牛生産につながる改良の歴史を紹介します。	500 円

	郷土の企画展 「胆江の民俗記録 ―森口多里写真コレクションより―」 令和 5 年 1 月 21 日	A4　P36	森口多里は大正～昭和にかけて活躍した美術評論家、民俗学者で、岩手県内の民俗芸能や民俗資料の調査・記録を行いました。岩手県立博物館に寄贈された森口の資料の中から、胆江地域の民俗写真を展示し、森口の視点で拾い上げられた、暮らしや芸能の中の美を紹介します。	500 円
	牛の博物館第 31 回企画展 「世界のカウベル」 令和 5 年 7 月 15 日	A4　P26	カウベルは牛の首につける鈴で、牛のいる場所を把握し、牛の所有権を主張し、音によって捕食者を遠ざけるなどの役割をもち、金属、木、竹など、その地域で入手できる材料で作られます。 牛の博物館のカウベルコレクション中から約 150 点を紹介します。	500 円
	郷土の企画展 「胆江の稲作と畜産 農を支えた家畜」 令和 6 年 1 月 20 日	A4　P18	岩手県南地方では馬産地としての家畜飼養文化が礎となり、農耕馬、農耕牛、肉用牛と飼育される家畜が変遷する中、現在まで稲作と家畜飼養の結びつきが受け継がれてきました。地域の主要産業である稲作と畜産が互いに影響しながら発展してきたことを紹介します。	500 円
	牛の博物館第 32 回企画展 「牛の品種図譜と改良史 ―明治期における外国品種導入の試み―」 令和 6 年 7 月 20 日	A4　P18 フルカラー	明治時代に発行された「種牛図譜」、「新種牛図譜」には、日本の牛および外国の牛品種の特徴が精密な版画と解説で紹介されており、外国の牛をとり入れようとした時代背景が反映されています。それらと海外の図譜を通して、近代初頭の品種改良の歩みを紹介します。	500 円
	郷土の企画展 「森田純 版画作品 回顧展 ―東北地方の民俗をうつしだす―」 令和 7 年 1 月 25 日	A4 横　P24 フルカラー	森田純（1931-2005）は、前沢町（現奥州市前沢）出身の映像作家・版画家です。彼の作品の素材となったのは、地元、岩手県南に伝わる、民話・民俗芸能・仏教説話などでした。地域の伝統的な信仰、価値観を拾い上げ、作品に表現した森田の世界をご紹介します。	600 円
	牛の博物館 30 周年記念 第 33 回企画展 「和牛の来た道」 令和 7 年 7 月 19 日	A4　P22 フルカラー	世界から注目されている「和牛」。現在は肉用牛として利用されていますが、そのルーツは、役用に利用されてきた日本在来牛です。本企画展では、日本在来牛の歴史を絵画資料で紹介し、その変遷と現在の和牛４品種に受け継がれる特徴を紹介します。	600 円